

農林水産省 食料産業局長賞

和田地区自給野菜組合(山形県高畠町(たかはたまち)) ～組合創立50年。安全・安心な野菜を子ども達に届け続ける～

組織概要

- 代表者 組合長 高橋 稔
- 所在地 山形県東置賜郡高畠町
- 構成員 生産者20名・消費者350名
- 活動開始年 昭和39年



受賞のポイント

- 子ども達へ地元の安全・安心な食材を供給するため、母親が中心となって、無農薬野菜を栽培し、昭和39年から半世紀にわたり、地域の農産物を学校給食に安定して供給することで、生産者・学校・子どもたちの間に強い信頼関係が生まれ、子どもたちの地域の農産物への理解が深まり、地域への愛着や感謝の気持ちが育まれている。
- 子ども達に地元の安心・安全な農産物を食べてもらいたいという思いが他の地域に波及し、町内全域で地場農産物の供給が行われている。

取組内容

■取組みの経緯・成長の契機

- ・和田小学校の給食は昭和32年から始まる。当時は業者から野菜を購入をしていたが、値段が高く保護者の費用負担が大きくなり、地元の安全・安心な地元食材を供給して欲しいという学校長の要望に応え、昭和39年に児童の母親が中心となり和田地区自給野菜組合(24名)を結成し、今日まで50年間にわたり自給野菜の供給活動を継続。
- ・平成22年より中学校の学校給食が開始されると、新たに中学校部会が発足し、現在は合わせて20名の組合員が自給野菜の供給を実施している。

■取組みの特徴・活動の強み

- ・和田地区は有機農業の発祥地とも言われ、食の安全・安心に対する住民の意識が高いことと、利益ではなく、「地域の子どもたちの成長を自分たちが作ったもので支えていることが何よりの喜び」という組合員の想いが50年にわたる活動を支えている。
- ・発足当時から現在まで、子ども、孫、ひ孫の三世代に野菜を供給している組合員もいる。
- ・安心・安全な食材を提供するため、和田地区の小中学校に無農薬栽培の野菜を納入(24年度は人参、キャベツ、玉ネギ、じゃがいも等38品目)。
- ・地場産物を活用した給食回数は、年間給食回数の88%にもものぼる(平成24年度)。
- ・毎月の定例会で、調理師が作成した「自給野菜注文書」(必要な野菜と数量の一覧)に基づき、「いつ、だれが、何を、何キロ納入するか」を決定している。
- ・定例会では、学校から給食時間の子どもたちの様子なども伝えられ、組合員の生産意欲の向上につながっている。

■地域への貢献・波及効果

- ・無農薬栽培に取り組む生産者(組合員)の食に対する願いや考え方をすることで、子どもたちに地域の食文化についての理解が深まった。
- ・顔が見え、話ができる関係が築かれることで、生産者との交流が深まり、地域への愛着や感謝の気持ちを育むなど、子どもたちの食育の向上に貢献している。
- ・町内の他地区にも、学校給食に地場産物を納入することを目的とした4つの団体が組織されるなど、学校給食への地場農産物の供給の取組が町内に波及している。